

DMO  
必読

# 海外の観光地域づくり

丸山芳子 ワールド・ビジネス・アソシエイツ シニア・コンサルタント



vol.56

## こんなことも持続可能な観光

持続可能な観光に対する関心は少しずつ深まっています。

しかし具体的にどのような取り組みができるか悩んでいる地域も多いのではないのでしょうか。

実は身近な取り組みでもSDGsに貢献できるかもしれません。

今年、そんなアイデアが詰まった出版物に日本語版ができたのです。

持続可能な観光については、現在観光庁が20年に発表した「日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」があります。これは持続可能な旅行と観光に取り組むグローバル・サステナブル・ツーリズム協議会 (GSTC) によるグローバルスタンダードに基づいたものです。JSTS-Dは観光地域全体の持続可能性をマネジメント、社会経済、文化、環境の4つの領域での向上を図ります。JSTS-Dは地域で持続可能な観光を目指します。この目標は大きいのですが、これらは小さな努力の積み重ねによるものといえます。

例えば、地域で古民家を宿泊施設にリノベーションするプロジェクトがある場合、給湯や空調設備を再生エネルギーや熱効率が高い設備を導入すれば、持続可能な観光に貢献したことになります。こういった具体的な事例を知ることで、自分でもできそうなことが見えてきませんか。

### 観光プロジェクトに焦点

具体的な対策の例示も交えながら持続可能な観光の取り組みへの気づきを与えるのが「観光を通じた持続可能な開発目標 (SDGs) の達成 - 観光プロジェクトのための指標ツールキット (TIPs)」です。

これは、国連世界観光機関 (UN ツーリズム) と国際協力機構 (JICA) による協働プロジェクトによるもので英語版が23年7月、日本語版が24年1月、

スペイン語版が24年9月に公開されました。

TIPsは次のような経緯で作られました。JICAを含む国際協力機関などはさまざまな国を対象に開発協力を行います。いまこの瞬間も世界中で多くの観光プロジェクトが実施されていますが、これまでそれらのプロジェクトがSDGsに貢献しているのかどうかは可視化されてきませんでした。しかし、観光プロジェクトのどのSDGsにどの程度貢献するか可視化できれば、客観的に説明できます。それがTIPsです。

TIPsの特徴は観光プロジェクトに焦点を当てたことです。プロジェクトとは一定の期間と予算制約の下で、ある目標を達成しようとするものを指します。プロジェクトに当てはまるものは意外と多くあります。例えば国や自治体の補助事業や、民間企業の研修などです。期間を決めて管理した事業であれば、1カ月でも数年でもプロジェクトといえます。プロジェクトが目指す目標を達成したか測定するのが指標です。この成果の測定にTIPsの指標を採用すれば、プロジェクトがSDGsのどのゴール、ターゲットを達成するものか成果が評価できるようになります。

SDGsで観光に言及しているのは、ターゲット8.9「有益で持続可能な観光を促進する」、12.b「持続可能な観光のモニタリング手法を開発・導入する」、14.7「海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる」です。しかし、TIPsはそれ以外のゴー

ルやターゲットについても1つずつ意図を読み解き、SDGsの17のゴールすべてが観光で貢献できることを示しました。そしてプロジェクトに活用できる指標を約800例提示しています。

## SDGsへの貢献を可視化

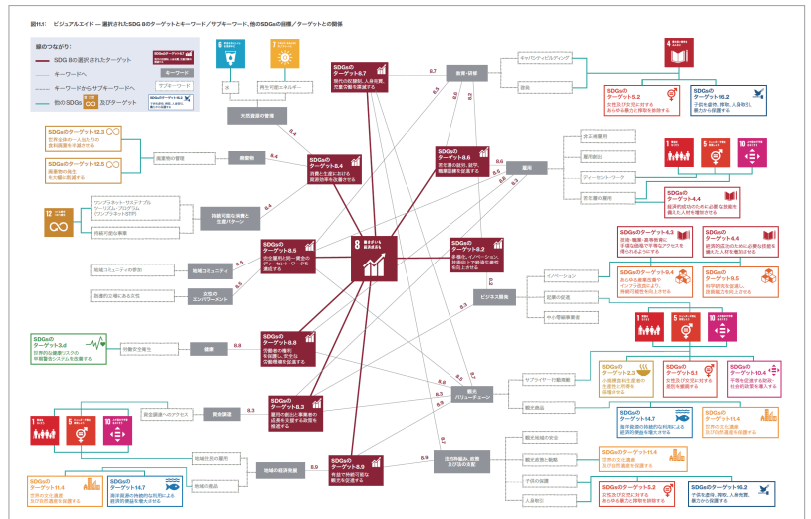
ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」を見てみましょう。このゴールは直接観光を扱っていません。しかし、例えば観光スキル向上の研修を行う場合に参加者に占める女性の割合を指標と設定し、多くの女性に参加してもらえれば、女性の能力向上が目指せます。また土産物の仕入れに女性が経営する企業からの割合を指標に設定すれば、その比率を高めることで女性の企業家、ひいては女性の収入を向上させられます。TIPsが観光とSDGsの関わりを説明し、それに沿った活動をすることで持続可能な観光の視野が広がります。

TIPsは国際的に普遍的に使えるように、世界のさまざまな状況に適応しています。そのため掲載した指標には後発開発途上国や小島嶼開発途上国など、活用する国や地域を限定した指標もあります。あるいは主に政府関係者のみが活用する指標が含まれます。日本語版はそれを英語から翻訳しており、日本向けに内容を変更していません。このような前提から約800ある指標をすべて使う必要はありません。また、日本の事情やプロジェクトの規模、組織の特性や規模に応じて利用者の状況に合わせてカスタマイズできます。TIPsは指標作成のヒントを提供するという位置づけです。

TIPsの利用者としては、政府機関、地方自治体、宿泊事業者や旅行会社などの民間事業者、DMO・コンベンションビューロー・観光協会、非営利組織、学術機関など幅広く想定しています。

政府や地方自治体では、単年度で事業計画を立て、用途の目的や成果を明確にする必要があります。この成果測定にTIPsの指標を採用することでSDGsへの貢献が可視化できます。また補助金を実施する際、採択の要件にTIPsの指標活用を指示すれば、応募者がSDGsに基づいた提案をすることになり、実際に活動が行われます。

民間企業でも期間を決めて目的を達成する取り組みはプロジェクトとして扱えます。民間企業では持続可能な取り組みを可視化できれば、ESG経営



ゴール8のビジュアルエイド。他のゴールやキーワードとの関係性が図示化されている

として融資や投資の条件を有利にすることが期待できます。学術機関では、国内外の関連機関との共通した理解の下での研究、社会貢献が可能になります。また、学生や社会人に対する観光教育を推進する際の教材としての活用も期待できます。

TIPsの指標には具体的な数値目標は指定していません。したがって達成する数値目標は背伸びしたものである必要はなく、小規模な事業者でもプロジェクトの期間と取り組みの範囲を決めることで活用できます。

TIPsは多くの指標の中から、利用者が自分のプロジェクトに適した指標を見つけるための工夫も凝らしています。1つの取り組みが複数のSDGsに関連していることを見つけやすくするビジュアルエイドもその1つです。

TIPsはUNツーリズムとJICAが4年をかけて制作しました。作成段階のドラフトは国際機関や日本国内の観光関係者にもピアレビューしていただき、指摘された事項を反映して完成に至りました。実は筆者はこの制作の日本側のリーダーとして携わりました。UNツーリズム側の担当者と指標1つ1つについて検討を重ねながら作成した経験は本当に貴重でした。

TIPs本体のほか、コンセプトをわかりやすく説明した紹介ビデオの日本語版もあります。また、日本の事情に合わせた説明資料も準備されています。これらはJICAホームページでダウンロードできます。多くの人に活用いただければ幸いです。

まるやま・よしこ ● 国連世界観光機関 (UNツーリズム) での調査業務やDMO支援等の実績多数。DMO幹部対象資格CDME取得者。米デスティネーションズ・インターナショナル財団元評議員。データサイエンティスト検定に合格し観光DXに詳しい。中小企業診断士。

(次回は12月9日号に掲載します)